

# クールジャパン人材育成に係る取組状況

---



Japan. Cool Japan.

平成29年3月21日（火）

内閣府 知的財産戦略推進事務局

# 「クールジャパン拠点構築検討会」について

「クールジャパン戦略官民協働イニシアティブ」等を踏まえ、クールジャパン拠点の構築や、拠点間のネットワーク化に向けた取組を後押しするため、「クールジャパン拠点構築検討会」を立ち上げ。今後、「クールジャパン拠点連携実証調査」の結果等を踏まえ、拠点連携に関する具体的方策やノウハウを取りまとめ、全国に発信・展開。

**クールジャパン戦略官民協働イニシアティブ**  
(2015年6月「クールジャパン戦略推進会議」とりまとめ)

**クールジャパン戦略深化の視点:「人材ハブ」の構築**

クールジャパン関連分野の人材を世界中から引きつけて、これらの人材が持つ創造性を集積させ、更に高度化し、世界に向けて発信するためのハブの構築が重要

**政府が実施する横断的な取組**  
(各分野の人材・情報の集積・発信拠点の形成)

情報の集積・発信機能を有する拠点（ハブ）の構築を行う民間の取組を、関係府省が連携して支援

**日本再興戦略2016**（2016年6月閣議決定）

我が国の魅力を効果的に発信するとともに、文化産業を含めた新たなクールジャパン関連産業を創出する観点から、同プラットフォームの下に検討会を設置し、羽田空港跡地等におけるクールジャパン拠点構築に向けた民間の取組を後押しするとともに、こうした拠点間のネットワーク化に取り組む。

**クールジャパン拠点構築検討会**（2016年5月立ち上げ）

↓  
〔 拠点に求められる機能を議論 〕

**「中間とりまとめ」策定**（2016年6月）

拠点に必要な機能を「情報発信機能」、  
「人材育成・産業創出機能」に明確化

**クールジャパン拠点連携実証調査**（28年度補正予算）

拠点連携によりクールジャパンの情報発信、人材育成、  
産業創出等に取り組むプロジェクトを実施

実証結果のフィードバック

↓  
**「最終とりまとめ」**（2017年4-5月予定）

拠点連携に関する方策・ノウハウ等を取りまとめ

**全国のクールジャパン拠点の連携による機能強化**

	情報発信機能	人材育成・産業創出機能
視点	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 点から面に広がる情報発信</li><li>■ 受け手の共感を得られる情報発信</li><li>■ 驚きの提供</li><li>■ 地域との関係性の確認</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 国際的な訴求力の確保</li><li>■ 異分野の連携</li><li>■ 新たな挑戦の促進</li></ul>
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"><li>□ <b>インデックス機能・コンシェルジュ機能の構築</b> （例）全国の拠点に関する情報を集めたインデックスや、問い合わせ窓口を構築。</li><li>□ <b>ビジョンやストーリーの設定</b> （例）コンテンツの寄せ集めではなく、大きなビジョンに基づく一貫性ある情報発信を実施。</li><li>□ <b>非日常感・臨場感の演出</b> （例）来訪者が直感的に驚きを感じる建築物等を集積。</li><li>□ <b>地域に根付いた魅力の活用</b> （例）地域に根付いた情報（産業や歴史等）と、拠点から発信する情報を調和。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>□ <b>海外との提携</b> （例）海外の教育機関等と提携し、海外の優秀な人材を誘致。</li><li>□ <b>「総本山」の確立</b> （例）国内拠点を本部（総本山）と位置付け、その支部機能を海外に設置することで、海外から人材を誘致。</li><li>□ <b>外国人材の受け入れのための環境整備</b> （例）在留資格の明確化等、海外のクールジャパン人材受け入れのための環境を整備。</li><li>□ <b>実験的試みが可能な場の提供</b> （例）アーティストやクリエイターが自由に制作・発表できる場として、拠点の一部を開放。</li></ul>

# 「クールジャパン拠点連携実証調査」プロジェクト一覧

	事業名	実施主体	実証地域	主要分野	連携の 主な目的
1	アニメのイメージとなった地域を核とした拠点間連携による日本の魅力の一体的・効果的発信	(一社)アニメツーリズム協会	飛騨エリア（飛騨・高山・下呂・白川）、東京	アニメ、マンガ	情報発信
2	日本酒と関連分野を組み合わせた海外富裕層向けマーケティングモデルの構築	サイエスト(株)	東京、茨城、長野 等	食文化	情報発信 産業創出
3	ロケ地情報の効果的な集約・発信による海外撮影クルー誘致を通じた地域活性化	(株)Journal Entertainment Tribute	東北地方	映像コンテンツ	情報発信
4	都市部のクールジャパン人材と地方のクールジャパン資源を活用した地方の魅力の効果的発信	(一社)大丸有環境共生型まちづくり推進協会	東京（大手町・丸の内・有楽町エリア）、新潟	食分野	情報発信 人材育成
5	ガストロノミーマニフェストに基づく食と周辺産業の連携による、食分野における日本の国際的発信力強化	(株)辻料理教育研究所	大阪、東京、鹿児島、鳥取 等	食文化	情報発信 人材育成
6	技術とデザインを融合させた最先端デザインラボ設置によるクリエイティブ人材創出の加速	東京大学生産技術研究所	東京	デザイン	人材育成 産業創出
7	空間デザインの発信による家具・インテリア産業のビジネス力強化	(株)東京デザインセンター	東京、金沢、高山、名古屋	インテリア、建築、デザイン	情報発信 産業創出

## 《目的》

都心において、①外国語が堪能な都市部の人材を、地方の魅力をツアーを通じ深く伝えることのできるクールジャパン人材として育成するとともに、②地方のクールジャパン拠点に関する情報発信を行う。こうした人材育成や情報発信を行う都市部の拠点と、地方のクールジャパン拠点のネットワーク構築を進めることにより、外国人に対して地方の魅力を効果的に訴求するシステム構築につなげる。

## 《プロジェクト概要》

### 地域ナビゲータースクールの開講

「大丸有」(大手町・丸の内・有楽町)エリアにおいて、外国語が堪能な人材※に対し、地方のクールジャパン資源を国内外の人に深く伝えることができるようにするための教育を実施(2/1~3/1までに計4回のプログラムを実施)。

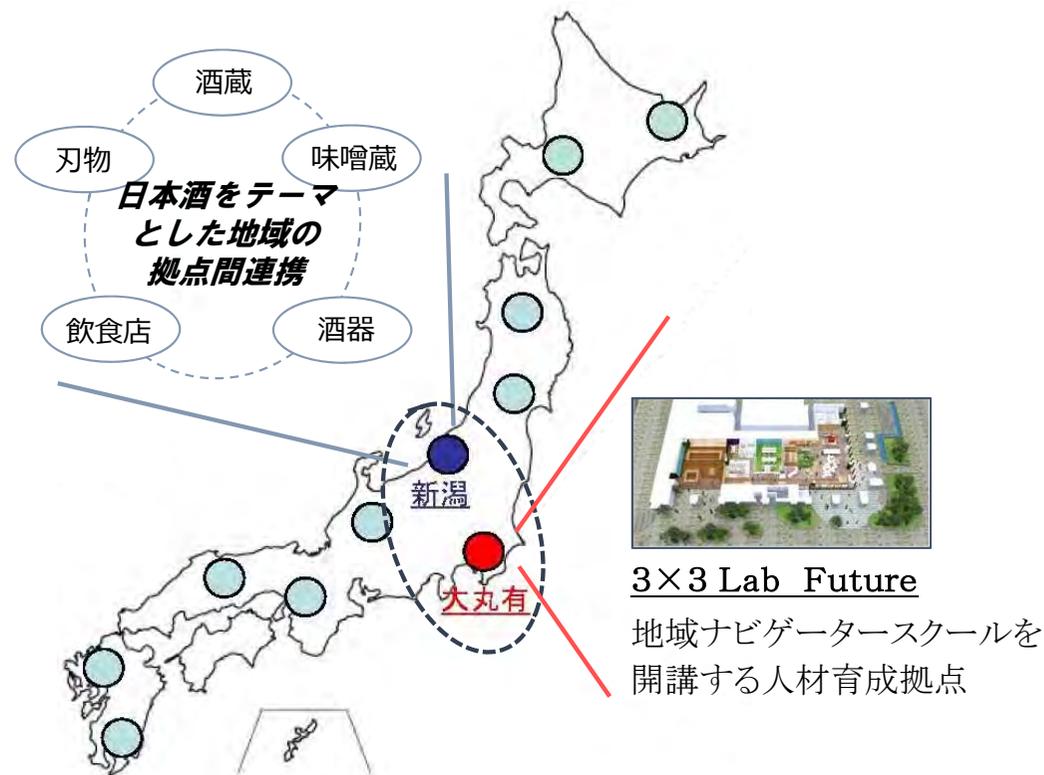
※ 都市部在住の留学・海外居住経験のある人や、日本在留歴の長い外国人等が受講対象。

(今後、受講者を「ニッポンナビゲーター」として登録し、リスト化することも検討)

ナビゲーター活用

### ナビゲーターを活用したツアー実施

ナビゲータースクールの一環として、日本酒をテーマとする丸の内ツアー(2/15、16)と新潟ツアー(2/25-26)を実施。



都市部の人材を活用し、外国人に対して地方の魅力を効果的に訴求するシステム構築に向けた方策を検討

《目的》

料理人、農業、観光、教育、自治体等の関係者・拠点が連携し、①日本の食の未来ビジョン(行動規範)となる「ガストロノミー・マニフェスト」※を策定するとともに、②マニフェストに基づいて日本の食の発信・展開等に取り組むことにより、食分野における日本の国際的発信力・展開力の強化につなげる。

※ 持続可能な食文化産業の在り方に関する宣言。特に欧州を中心に、料理人や生産者、研究者等が連携し、マニフェストに掲げられた理念(料理の中に季節感を反映、伝統食材の新しい価値探求 等)を全世界の消費者に向けて発信する活動が活発化。

《プロジェクト概要》

海外有識者等を招へいたシンポジウムの実施

- ・ 地方自治体や有識者(日本ジビエ振興協議会)、教育機関等を交え、地方におけるガストロノミー・マニフェストの有用性を議論(1/21)。
- ・ ガストロノミーに造詣の深い海外有識者※を招へいし、山形県(2/20)と東京(2/23)においてシンポジウムを開催。日本の食文化の強みなどを議論。
- ※ 山形県では、ガブリエラ・モリーニ イタリア食科学大学准教授を招へい。
- ※ 東京では、同准教授に加え、グレッグ・ドレーシャー The Culinary Institute of America 副学長を招へい。

産業界や地方との連携強化に向けた調査

マニフェストの策定・活用に係る観光事業者や教育機関との連携強化を目的としたヒアリング調査を実施。

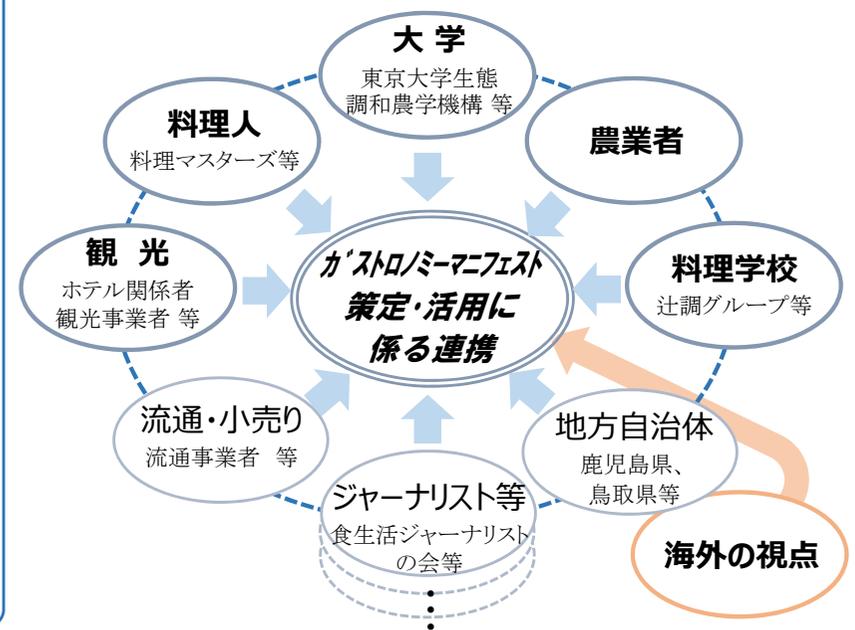
地方・コミュニティ視点のインプット

国際視点のインプット

産業界等の視点のインプット

マニフェスト策定部会の開催

様々な分野の関係者を巻き込み、ガストロノミー・マニフェストを策定・マニフェストの効果的な活用方法を確立。



マニフェスト策定を通じ、料理人・農業者・内外の学校関係者等による日本の食文化の効果的な発信・展開に資する連携の在り方を検証

食分野における日本の国際的発信力・展開力の強化

# 【実証プロジェクト⑥】技術とデザインを融合させた最先端デザインラボ設置によるクリエイティブ人材創出の加速

## 《目的》

世界最先端のデザイン教育機関と国内の技術研究機関とが連携してデザインラボを設置した上で、デザインラボにおいて、  
①国内外の優秀な人材を誘致してデザイン性・機能性の双方に優れた製品等のプロトタイプ作製に取り組むとともに、  
②そこで得られた成果や手法を広く発信・浸透させるために国内の企業や教育機関等との連携を深めることにより、  
日本におけるクリエイティブ人材創出を加速させる。

## 《プロジェクト概要》

### マイクロラボでのデザインプロジェクト実施

英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート※1と東京大学生産技術研究所※2のメンバーから構成されるスモールチームにより、デザイナーと技術者が協働して少子高齢化やエネルギー等の諸問題に対する解決策を提示するデザインプロジェクトを実施。

〔※1) ロンドンにある修士号と博士号を授与する世界で唯一の美術・デザイン系大学院大学  
※2) 工学の幅広い分野をカバーする東京大学の附置研究所〕

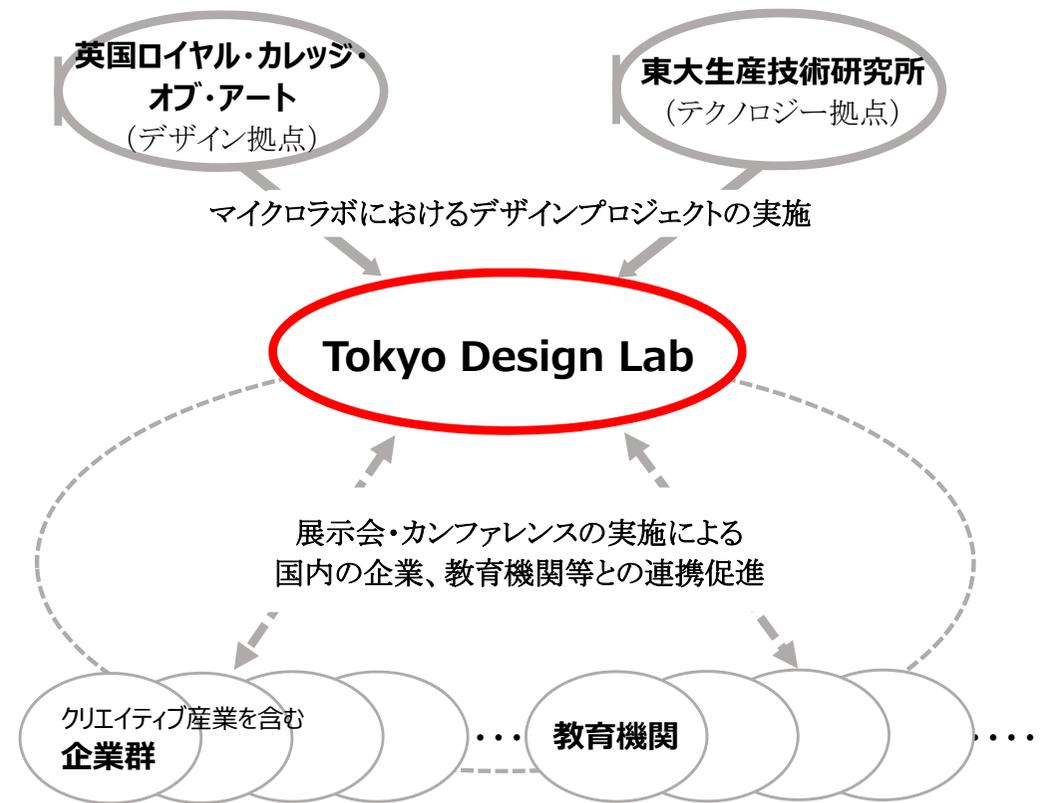
### カンファレンスによる産官学ネットワーク構築

マイクロラボの成果発表を行うカンファレンスを実施（2/28）し、産官学のネットワークを構築。

### ワークショップを通じたデザインエンジニアリングの普及

デザインエンジニアリングの社会への普及を目的とする一般向けのワークショップを実施（2/17）。

- 内外の先進的な教育機関同士の連携によるデザインとエンジニアリングの相乗効果を発揮できる人材育成方法を検討
- 企業にとって有用なクリエイティブ人材の育成に資する拠点間連携の在り方を検証



デザイン性と技術性を合わせもつ商品・サービスを創出できる人材の育成を加速